

inteman

デュオ・ベータ・管球式コントロール・センタ

CL34

¥168,000 木箱別売¥15,000

音楽の再現性と、すぐれた特性を併せもつコントロールアンプ
素材に真空管、回路技術にデュオ・ベータの組みあわせが実現。



LUX CORPORATION

真空管,デュオ・ベータ,DC。あらゆる意味で“驚異

管球式アンプの卓越した音楽再現性。これをトランジスタ回路で実現したデュオベータ。

裸特性のすぐれたDCアンプ回路と、適量 NFB プラスDCサーボの組みあわせです。

このDCアンプを真空管で構成すれば。

デュオ・ベータ回路を、もういちど真空管にかえてやれば……

管球式の可能性を極限にいたるまで引き出す、画期的なアンプの誕生です。



管球式のDCアンプ

艶のある豊潤な響き, 音楽の背

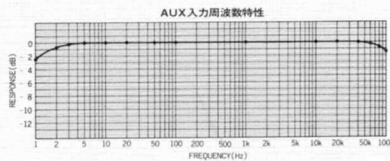
3段直結増幅回路——イコライザ

真空管でDCアンプを構成することは、トランジスタやFETのように簡単ではありません。あつかう電圧が大きく、しかもマイナス電源を必要とするというような電源の問題はもちろん、動作条件の変化に左右されないための、高度な安定化を実現する技術が要求されます。ここには、伝統あるラックスの管球式アンプ技術が活かしています。回路としては、イコライザとして十分なゲインを得るために3段直結増幅回路を採用し、出力段(3段目)はS.R.P.P.(シヤント・レギュレーテッド・プッシュプル)としています。S.R.P.P. は非直線動作を自ら補正するよう動作して歪みを打ち消すと同時に、出力電圧が高い、すなわち耐入力が大きくとれること、出力インピーダンスがきわめ

て低い、などさまざまな利点をもつ回路です。段間結合コンデンサを開放したことによる音の色付けの排除、素材そのもののすぐれた素質を引き出した裸特性。デュオ・ベータ搭載の前提となる諸条件を、完璧なまでに達成したイコライザです。

2段差動増幅回路——フラットアンプ

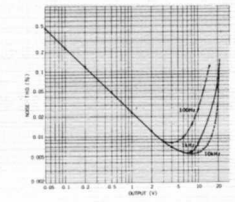
ゲインをさほど必要としないフラットアンプ。ここには、理論的にも偶数次歪みを発生しない2段差動増幅回路を採用、もちろん直結構成です。3



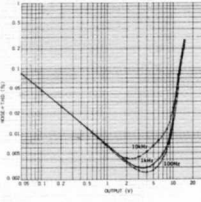
~70,000Hzという管球式の常識を超えた周波数特性、イコライザとともに0.008%以下という低歪率。そのいずれもが、過度のNFBや付加回路にたよることなく達成されています。ここにも、デュオ・ベータ回路の思想が活かしているわけです。

さらにこのフラットアンプのNFBループ内にトーンコントロールを組みこんだシンプルな構成、完全な切り離し(ディフィート)も可能にしています。

イコライザアンプ全高調波歪率特性



AUX入力全高調波歪率特性



管球式のデュオ・ベータ

すぐれた素質を極限まで

適量NFBとDCサーボ—デュオ・ベータ回路
ダンピングの効いた低域と艶のある透明度の高い中高域。デュオ・ベータ回路が実現したすぐれた音楽の再現力を、管球式アンプ回路にも採用しました。NFBにたよらない裸特性のすぐれたアンプ回路、という条件はまさに管球式アンプそのものです。CL34は、ここに管球式のDCアンプを採用。回路の面でも、さらに大きく前進しました。管球式アンプのもつすぐれた中高域の再現性をさらに高める“適量NFB”。ともすれば管球式アンプの弱点とされていた低域の制動力を飛躍的に

高める“DCサーボ”。異なる役割をもつ2つのNFBが互いに助けあい、まさに“デュオ=二重奏”を構成して、全帯域にわたるすぐれた再生音を実現します。

管球式を超えた管球式—DCパワーの接続も

真空管を素材としたデュオ・ベータDCイコライザ、そしてシンプルな直結構成フラットアンプ。デュオ・ベータ開発のノウハウが随所に採用され、素質においてすぐれた素材—真空管のアンプ回路の諸特性をさらに改善しています。薄形のコストラクションを採用しているにもかかわらず、大幅なプリント基板化による長期間の安定性、ノイズの抑圧。とりわけDCサーボの採用による、フリッカ・ノイズ、1/fノイズなどの超低域ノイズ成分の除去、直流安定性の向上。どれをとっても、従来の管球式の枠を大きく跳び越えた内容です。

